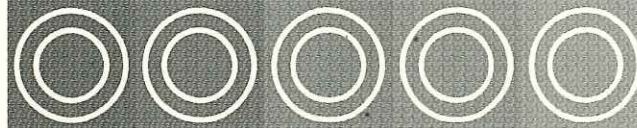


創世ホール通信 No. 273

催し案内 + 文化ジャーナル
2017年10月1日発行 ■北島町立図書館・創世ホール
電話088・698・1100◎ファクシミリ088・698・1180
771-0207◎徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91◎



北島トラディショナル・ナイトVOL. 21

英国・ケルトの愛らしい旋律

歌とリュートによるルネサンスから現代のブリテン諸島の歌曲の数々

平井満美子・佐野健二コンサート

10月27日(金) 19時～(18時半開場)

会場●3階多目的ホール

入場料●前売/大学・一般2000円、小・中・高1500円(当日各500円増)

出演●平井満美子 ソプラノ

佐野健二 リュート

演奏予定曲目「グリーンズリーブス」「サリー・ガーデン」「アイルランドの祝
禱(しゆくとう)」「フォギー・デュー」「カヴァテナ」ほか

主催●北島トラディショナル・ナイト実行委員会(☎088・698・1100)

共催●北島町立図書館・創世ホール

後援●アイルランド大使館、徳島新聞社、朝日新聞徳島総局、四国放送ほか

■ケルト文化圏の美しく豊かな音楽を探求する「北島トラディショナル・ナイト」は1997年秋にスタートしました。20周年の今年は、世界古楽界の至宝、平井満美子・佐野健二ご夫妻をお迎えし、ブリテン諸島のリュート歌曲をお届けします。多数、ご参集ください。



子育て支援ファミリー・コンサート

11月17日(金) 11時～11時半(開場10時半)

会場●3階多目的ホール

無料

出演●徳島県警察音楽隊

主催●北島町教育委員会(☎088・698・9812)

■毎年11月に開催し大好評をいただいている未就学児歓迎のコンサート。時間は約30分。子どもさんが喜ぶような曲を用意しています■子育て支援の催しです。乳幼児とお母さんお父さん大歓迎!



フクシマ・トクシマ連帯映画祭

遠藤ミチロウ監督主演作品「シタミョウジン・最終版」

上映会 + 監督挨拶 + ライヴ

12月16日(土) 18時30分～

会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売2000円(当日2500円)

作品●「SHIDAMYOJIN(シダミョウジン/羊歯明神)」最終版

(2017年、日本、71分、ドキュメンタリー) 出演=遠藤ミチロウ、伊藤多喜雄、木村真三、福島県志田名(しだみょう)地区のおじいちゃんおばあちゃんほか 監督=遠藤ミチロウ、小沢和史

主催●フクシマ・トクシマ連帯映画祭実行委員会(☎088・698・1100)

■吠え続けるミュージシャン・遠藤ミチロウのロード《盆踊り》ドキュメンタリー映画! ■原発事故が生んだメルトダウン・ミュージック! ■遠藤ミチロウは語る「盆踊りが蘇る! 民謡が蘇る! 東日本大震災、福島原発事故が壊したのは人々の生活だけじゃない。そこに生きる人々の心も破壊した。でも、自分達の本来の『祭り』を蘇らせることで、生きる希望を紡ぎだすことができるんだという熱意がバンド《羊歯明神(しだみょうじん)》を生んだ」■故郷の福島で盆踊りにインスパイアされた遠藤ミチロウが繰り広げるアンプラグド・パンクの新たな形、これが民謡パンクだ! ■ミチロウが追い求める祭りとは? 本作は映画作家・小沢和史と組んだ遠藤ミチロウ監督作の第2弾! ■当日は上映後に本人あいさつと、ライブもあります。



パンク!
×
民謡!
×
盆踊り!

文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

北島トラディショナル・ナイト20年

10・27コンサートにお越し下さい■小西昌幸

■私(小西)は昨年度と今年度、週4日勤務の嘱託職員としてホールの催しの企画広報に関することと『北島町史続編』編纂に関する仕事をしています。この『北島町史続編』は、来年3月に発行することになっています。その中では創世ホールの主な自主事業の記録も掲載される予定であり、「北島トラディショナル・ナイト」の足跡も載ります。そのほかに、「北島町がテーマの音楽」という項目もあり、「北島音頭」「ひょうたん島の源九郎」とともに「ノース・アイル・タウン(北・島・町)」が取り上げられています。同曲のことはこれまでも何度か当欄でご紹介しましたが、「トラディショナル・ナイト」に直接関わる記述なので、この機会にひとつの記録として『町史続編』掲載予定の文章を下に転載させていただきます。

【ノース・アイル・タウン(北・島・町)】 日本におけるアイリッシュ・ハーブ(ケルティック・ハーブ)演奏の第一人者である坂上真清(さかうま・ますみ)氏が北島町をイメージして作った、ケルト風味に満ちた軽快で美しい器楽曲。坂上氏は、創世ホールの《北島トラディショナル・ナイト》シリーズの志に敬意を表してこの曲を献呈したという。同氏は北島トラディショナル・ナイトに3回出演(平成10年と同27年ディングلز・ヴュー、同22年ハンドリオン)。二度目の北島訪問の際、風景を眺めながら車中で曲が閃いたとされる。同曲は、平成25年発売のCD、ザ・ケルティック・ハーツ・クラブ・バンド「ケルトシットルケ3」(ピートショップ)に収録されている。創世ホールの舞台では平成27年11月開催の北島トラディショナル・ナイト19「ケルトシットルケ・オールスターズ/てんこ盛り・アイリッシュ音楽(小西昌幸定年退職メモリアル・イヴェント)」で氏のグループ、ディングلز・ヴューによって四国初演され、好評を博した。その模様はNHK徳島放送局の夕方のローカル・ニュースで録画放映されたほか、キューテレビでは当該演奏会の映像全編(約3時間)が6回放映された。坂上氏は重点レポーターとして各地で同曲を披露している。ユーチューブでも視聴できる。

■《北島トラディショナル・ナイト》シリーズは、1997年に始まりました(第1回は11月14日)。ですから今年は満20周年となります。この企画の動機や、運営面でのこぼれ話、苦労話的なことは、それぞれの催しのつど書いてきましたし、以前担当していた夕刊コラムなどあちこちで書いていますが、網羅的・記録的な記述は第19回のとくと20回のとくにそれぞれ当「文化ジャーナル」欄で紹介していますので、過去の出演者リストなどに関心ある方はそれらの号に直接当たってみて下さい(249号[2015年10月号]、262号[2016年11月号])。

■記念すべき今年度の出演者は、平井満美子さんと佐野健二さんご夫妻です。お二人は過去2回当館のステージに立っています。創世ホールは1995年から2002年まで国内演奏家による古楽(=アーリー・ミュージック)探求シリーズ《北島クラシカル・エレガンス》を開催していました。それは、ヨーロッパの中世やルネサンス時代の音楽を紹介するものです。このシリーズには、タブラトゥーラ(2回)、ダンスリー・ルネサンス合奏団(2回)、カテリーナ古楽合奏団、コンセル・ノヴァという古楽界の大御所が出演しており、平井・佐野ご夫妻も2度出演してくださっているのです(第2回[1996年2月]と第7回[2001年2月])。日本の古楽の世界に詳しい人なら20世紀末から新世紀初めの我が国において、北島クラシカル・エレガンスのラインナップがどれほど凄いものであったか(高水準であったか)はご理解いただけるはず。私は自信を持って、胸を張って世間に自慢したいと思えます。

■お二人は大阪府豊中市にお住まいです。佐野さんは世界有数のリュート奏者であり、間違いなく国内トップ・クラスの演奏家です。それは例えば、タブラトゥーラがレコーディングの際に、助っ人のリュート奏者を必要とするときは、必ず佐野さんに声がかかるわけです。また夫人の平井さんも著名な声楽家であり、ご夫妻は共にかつて名門ダンスリー・ルネサンス合奏団に所属しておられました。日本古楽界の本流に位置される存在です。私は今回お二人のことを《世界古楽界の至宝》と表現しました。

■アイルランドやスコットランド、ウェールズなどのケルト文化圏の音楽愛好家なら、その方面の古い伝承曲がクラシックの世界の古楽の曲と多く重なっていることに気づかれると思います。「グリーンスリーブス」「スカボロ・フェア」「サリー・ガーデン」などが代表で、これらはどちらの演奏家もレパートリーにしている基本中の基本曲と言ってよいと思います。これらの楽曲は、古楽とケルト伝承曲の橋渡しをする位置にある作品(ミッシング・リンク)と言ってよいと思います。それは数百年という歳月を経てなお輝きを失わない、音楽自体の普遍的な力を宿した作品なのだと思っています。

■前にも書いたことがあると思いますが、私が古楽に関心を持ったのは、坂本龍一+ダンスリーのLP「エンド・オブ・エイジャ」(1982年)によってでした。発売当時、購入しその世界に魅了され、ダンスリーのほかのアルバムを探しました(岡本マリヴォンヌさんが描いたイラストのジャケットのもの[セカンド・アルバム]を後日入手)。私の年代のロック愛好家たちはもっぱら、このアルバムがきっかけで古楽の世界に関心を持ったという人が多いのではないかと思います。その解説書で千野秀一さんがお書きになっていたと思いますが、ここで展開されている音楽は、音楽の世界を食文化に置き換えた時、過剰に装飾され脂ぎった料理のような現代の大衆音楽に対する生野菜のような性質をもつものと言えるのではないかと、ということです。そして、数百年の歳月を経てなお、人々に愛されている、音楽としての真の力強さ(普遍的な力)をこれらの楽曲は宿している。以来、私は音楽の力について考察するとき、例えば巷で流行している音楽が、百年後に果たしてどれだけ生き残っているだろうか、という視点を持って接するようになりました。その時から私にとって古楽は大切な探究分野となりました。同時に、英国ロックの探求は、ジェスロ・タルなどを入り口にして、英国エレクトリック・トラッドを経て伝統音楽(伝承音楽)への関心にもつながっていき、アイルランド音楽~ケルト文化圏の音楽の険しく奥深い(しかし極めて魅惑的な)大森林地帯にたどり着くこととなります。考えてみれば、その二つを職場(北島町創世ホール)で一流演奏家によって継続して探究できたことは、極めて幸福なことであったと言わなければならないと思います。

■以下、手短かにこぼれ話を二つほど。出演者にいつもお願いしている「フォギー・デュー」を、今回も演奏していただけることになりました。お二人はクラシックの世界の大御所であり、そんな方々に気軽にリクエストしてよいか、それが失礼に当たりはしないか、躊躇しないではありませんでした。が、逡巡の末、思い切って私なりに礼を尽くしてお願いしてみました。快くOKしてくださったことに深く感謝しています。

■お二人のお弟子さんが徳島県におられることは、皆さんご存じでしょうか。沖野泉さんという方で、私は、今年から県立文学書道館が始めた《この日はロビーコンサート》の第2回出演者のプロフィールを読んでいて、平井さんと佐野さんに師事された方であることを知りました。沖野さんと一緒にグループを組んでおられる庄野龍夫・孝子ご夫妻も10月27日には、沖野さんと共に会場に足を運んで下さると思います。沖野さんにはぜひ楽

屋にご案内しなくてはなりません。

■また、準備不足で少々あせているのですが、20周年として図書館カウンター前で過去のトラディショナル・ナイトのポスターなどを掲示し、当館所蔵のアイリッシュ~ケルト~古楽のCDを展示したいと考えています。また今年も東京のアイランド大使館から同国を紹介した日本語パンフレットを送っていただき、コンサート来場者にお配りするようにしています。■どうか皆さん、10月27日創世ホールでの、平井満美子・佐野健二ご夫妻の演奏会「英国・ケルトの愛らしい旋律~歌とリュートによるルネサンスから現代のブリテン諸島の歌曲の数々」にご期待下さい。(2017年10月8日脱稿)

▼下に小西所蔵の3点のCD図版を掲載させていただきます。今となっては希少なものであるのではないかと思います。

上◎平井満美子・佐野健二「バーバラ・アレン」(エオリアン、1998)

中◎平井満美子・佐野健二「スカボロ・フェア」(ミサワ・クラシックス、1990)

下◎平井満美子・佐野健二「パパダイスケ」(尼崎ポर्टCMソング ザ・ウォーター・イズ・ワイド)(ミニCD、非売品)

273

